



を経て一年を経過したところで、今年三月末までの一年間の利用者は、当初の予想をはるかに上回る五千二百十二人で、一日平均十四人となっています。特に利用者の多かった月は、インフルエンザ患者が多かった今年一月で六百九十七人、一日平均約二十二人が利用しています。

このように急患センターは、地域救急医療のかなめとして圏域住民の中に定着してきているものと思っています。

## 本年度で完成

### 県北部老人福祉総合エリア

北部老人福祉総合エリアの現況について報告します。

今年二月一日に開所した「大館市特別養護老人ホーム」の入所者は六月一日現在、定員の百人に達しています。同じく二月一日から開所した「大館市ケアハウス」の利用者は六月一日現在、定員五十人に対し三十六人となっています。

また、特別養護老人ホーム内に併設する「大館市デイサービスセンター大滝」と「大館市在宅介護支援センター大滝」も、四月から開所しています。こちらは、ホームヘルプサービスやショートステイサービスとともに在宅福祉を援護する施設として大いに利用されています。

平成九年六月に着工した「大館市ふれあいセンター附属公園」の築造工事は、五月末現在で全体の八八・五パーセントに達し、九月三十日の完成を目指して順調に進んでいます。

一方、県が整備を進めている「コミュニティセンター」は、本施設のほか、多目的広場、テニスコート、ストリートバスケツトボールコート、ゲートボール場、

河川公園などを有し、八月一日の開所予定に向けてその全容が姿を現してきたところです。

なお、先に行われました秋田県議会二月定例会において「秋田県中央地区老人福祉総合エリア使用料徴収条例」が改正され、その中で、本エリアの名称が「秋田県北部老人福祉総合エリア」と規定されたことから、本年度からは県と歩調を合わせ、仮称を削除していることを併せて報告します。

## 好天続きで順調に推移 農作物の成育状況

基幹作物の水稻は、播種作業が昨年比やや遅れたものの、四月半ば以降の好天で春作業は平年より二、三日程度早く推移しました。移植時の苗質が良好で、移植期間中の気象も日照時間が長く、温暖に経過したことから植え傷みが少なく、活着は順調に推移しています。

野菜については、雪消えが遅かったため、ネギの播種作業が平年より三日から五日遅れたものの、全体的にはほぼ平年並みに推移しています。

また、果樹については、発芽が平年より多少遅れましたが、好天が続いたことから開花は三日程度



早まりました。現在のところ、問題となる病害虫の発生もなく順調に推移しています。今後とも気象情報に注意し、各関係機関と連携を密にしながら指導の徹底に努めてまいります。

## そのほかの行政報告

- ▽ISO推進事務局の設置について
- ▽あきた北空港の利用状況について
- ▽平成十年度の各会計決算見込みについて
- ▽公共事業の発注計画について
- ▽介護保険制度施行に係る取り組み状況について
- ▽誘致企業の工場竣工について